

コミュニティメディアの活用による新しい緊急告知システム

災害時の緊急放送を自動で受信する 「緊急告知FMラジオ」開発

その他

株式会社エフエムくらしき / 株式会社倉敷ケーブルテレビ

地域のコミュニティ放送局が伝える災害時の緊急放送を、自動的に受信して放送する「緊急告知FMラジオ」を、岡山県倉敷市のコミュニティ放送局株式会社エフエムくらしき（企画・システム提案）と株式会社倉敷ケーブルテレビ（設計・技術）が共同開発した。

コミュニティ放送局は市町村単位で開設されているFM（超短波放送）のラジオ局で、地域に密着した放送局として、エリア内の生活情報や行政情報、福祉・医療情報など身近な情報を提供し、災害時にも地域の人々が必要とする情報をきめ細かく伝えている。現在、コミュニティ放送局は全国に185局（2月末現在）あり、その約70%の局が市町村と「災害時の緊急放送に関する協定」を結び、災害時に市町村の要請があった場合、通常の番組を中断して避難勧告や避難指示の発令等を知らせる災害緊急放送を行っている。また、このうちの半数の局では、災害時に市町村の災害対策本部や国土交通省の河川事務所等の行政機関が直接住民に災害情報を伝えることができる緊急割り込み放送の設備を整えており、災害時の情報伝達で重要な役割を担っている。

このほど開発された「緊急告知FMラジオ」のシステムは、こうしたコミュ

ニティー放送局が災害時に発信する緊急告知放送の電波をラジオが自動的に受信。電源を切っけていても強制的に電源が入って、最大音量で緊急告知放送が開始される仕組みになっている。また、放送が始まると同時に、自動的に「緊急」文字のライトが点滅して、視覚的にも緊急を知らせるほか、下記のような特徴を持つ。

- 電波を利用しているため、災害の影響を受けにくく、屋内外のどこでも受信が可能である。屋内で受信できることから、大雨や大風などで緊急情報が聞き取れないということがない。
- FM電波が届かないエリアでは、同一地域のケーブルテレビを利用して受信ができる。また、コミュニティFM局がない地域でも、ケーブルテレビ局があれば利用が可能である。
- 重さ250g、携帯可能な大きさで、避難しながら災害情報を聞くことができる。
- コンセントから得られる電源のほか、電池も利用でき、充電式バッテリーも内蔵しているため、停電時にも放送を聞くことができる。
- 白色LEDライト2本を備えており、避難時や停電時、暗闇などでは、ラジオとしてだけでなく懐中電灯としても



避難勧告・指示などの災害情報を自動的に放送する「緊急告知FMラジオ」(縦11cm x 横16cm x 奥行き5cm、重さ250g)

使用できる。

- 基本回路が簡単なアナログ方式なので、故障がほとんどない安心なシステムであり、普通のラジオのように使い方が簡単である。
- 平常時には、地域のコミュニティFM専用ラジオとして利用できる（全国185局対応）。

この新しい緊急告知システムは、すでに昨年10月に倉敷市の本庁と支所においてテスト放送を終え、同市では、現在、福祉施設等への「緊急告知FMラジオ」の配備を予定している。

このシステムを開発したエフエムくらしきの大久保憲作・代表取締役は、全国のコミュニティFM局にその導入を提案しており、「災害時は、地域に密着して活動する我々コミュニティメディアの出番だ。この緊急告知システムの導入により、市町村における住民への災害情報の提供体制をより確実なものにしてもらえればと思う」と話している。「緊急告知FMラジオ」の予定販売価格は約8000円で、4月中旬には発売の予定である。

問い合わせ先

株式会社エフエムくらしき
代表取締役／大久保憲作

Tel 086-430-0600

Fax 086-430-0667

E-mail fmk828@tiki.ne.jp

URL <http://www.fmkurashiki.com/>

緊急告知システムによる住民への情報伝達の仕組み

